令和7年度PDCAサイクル（感染制御チーム：ICT）

P 計画

手指衛生向上とMRSA低減のエビデンス

手指衛生向上は,MRSAの伝播を防ぎ新規発生率を減少させる最も重要な手段の一つ

1.MRSA分離率の減少：手指衛生に関する多面的な介入により,手指衛生コンプライアンスが向上すると,MRSA分離率が有意に減少することが報告されている。

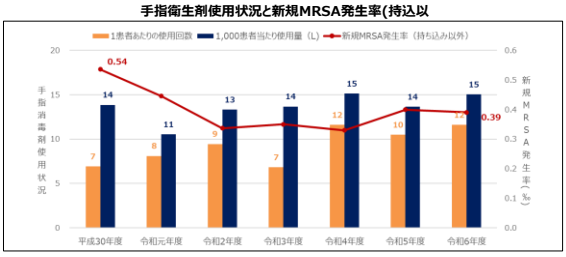
2.消毒薬使用量との相関：手指衛生プロモーションにより,コンプライアンスの向上と共にMRSA発生率が低下し,消毒薬の使用量が増加したことが示されている。

3.WHO推奨の指標：1日1,000患者あたり20L（15L以上の使用で院内感染防止に効果がある）/1日1患者あたり10回使用すると院内感染の防止に効果的であると提唱している。

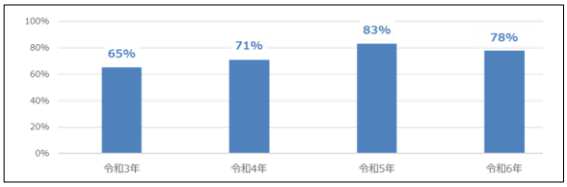
長期で見ると当院の手指衛生剤使用量は増加し,それに伴い新規MRSA検出患者数も減少傾向にあるが,手指衛生剤使用回数等は部署により大きな差がある。また,手指衛生遵守率においては,5つの正しいタイミングでの手指衛生が出来ていないため,手指衛生剤の使用回数等の「量」だけではなく「質」の評価が必要だと考えている。

今年度は,WHO手指衛生多角的戦略を導入し,戦略に則って手指衛生改善に取り組みより高いスコアを目指す。その結果,職員の手指衛生に関する意識が向上し手指消毒剤使用量の増加および薬剤耐性菌等の伝播防止に繋がる事を最終目標とする。

手指衛生剤使用状況と新規MRSA発生率(持込以



手指衛生遵守率推移



D 実行

1.定期的なモニタリングとフィードバック

1）MRSA等監視菌検出数と手指衛生状況を算出し,毎月リンクナース会で提示した。

2）WHOは,手指消毒使用回数等の数値だけではなく5つの正しいタイミングでの手指衛生が必要と掲げているため,手指衛生遵守率を評価項目として算出した。

3）電子カルテログインページに,院内の感染症発生状況とともに各部署の手指衛生遵守状況を公開した。

2.手指衛生遵守向上の取り組み

1）各部署で,看護師だけではなく他職種へ声かけを行い,手洗いチェッカーを用いて正しい手洗い方法を可視化し周知した。

2）WHO多角的戦略の導入

【目的】

5つの要素（物品設備・研修教育・測定評価・現場掲示・組織文化）に基づくアプローチによる手指衛生組織文化の醸成

（1）自己評価フレームワークの活用による年次推移評価開始

（2）手指衛生ロールモデル選挙実施

データ算出計算式

$$\text{MRSA発生率} = \frac{\text{MRSA検出患者数(持ち込み以外)}}{\text{入院のべ患者数（入院のべ日数）}} \times 1{,}000$$

$$\text{1,000患者1日あたりの使用量（L）} = \frac{\text{手指消毒剤使用量(L)}}{\text{入院のべ患者数（入院のべ日数）}} \times 1{,}000$$

$$\text{1患者1日あたりの使用回数} = \frac{\text{手指消毒剤払い出し量(ml)}}{\text{1回使用量（1.3ml）×入院のべ患者数}}$$

電子カルテログインページ

手洗いの可視化

C 評価

1.定期的なモニタリングとフィードバック

1）新規MRSA発生率と手指衛生状況手指衛生「量」の評価が継続できた。

2）手指衛生5つの正しいタイミングによる手指衛生遵守率は前年度より16ポイント下がり62%で過去5年間で最も低下した。これは医師の遵守率が低いかったことが影響しており、組織全体の真の課題である。

3）電子カルテログインページへの掲示は,「ICTニュース」等メールでのお知らせと比較し直感的な理解を促す視覚効果に優れており、情報共有できた。

2.手指衛生遵守向上の取り組み

1）看護師以外の職種も含め750名以上が手洗いを体験し、現在の手洗いでは不十分であるということを可視化でき感染対策の「自分事」化が図れた。

2）WHO多角的戦略

（1）自己評価フレームワーク

① 手指衛生レベルは中級から上級に上がったが、手洗いの「質」においては問題

② 管理部門の積極的介入を試みた結果、「組織文化」スコアが非常に高くなった。

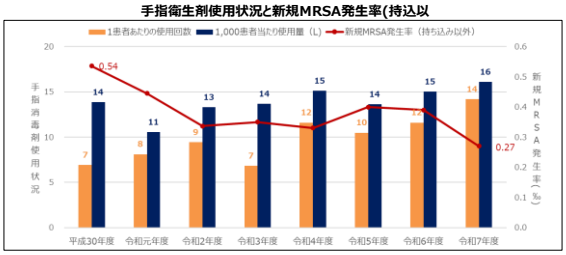
（2）手指衛生ロールモデル選挙実施

① リンクナースの在籍する部署を対象とし看護師30名を選出した。

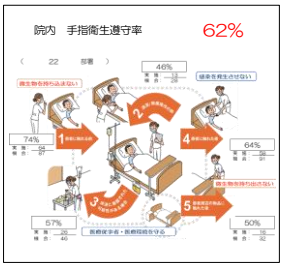
② ロールモデル部署として5部署選出した。

③ 多職種参加の場で部署表彰、リンクナース会および各部署でロールモデル表彰を行った。トップマネジメントの直接関与による手指衛生推進制を強化できた。

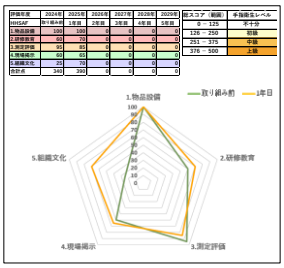
手指衛生剤使用状況と新規MRSA発生率(持込以



手指衛生5つのタイミング



WHO多角的戦略　自己評価フレームワーク



A 改善

1.定期的なモニタリング

1）数値は"やる気の見える化"ツールであるため、MRSA等監視菌検出数と手指衛生状況算出と定期的なフィードバックを継続する。

2）手指衛生5つの正しいタイミング観察の機会,職種を増やす。

① ICTラウンド,ICNラウンドにて,手指衛生直接観察機会を増やす。（手指衛生5つのタイミング全てはなく焦点をあてたタイミングのみの観察）

② 医師,中央放射線室,リハビリ科の手指衛生直接観察機会を計画する

3）電子カルテログインページへの公開を継続する。

2.手指衛生遵守向上の取り組み

1）職種を拡大し正しい手洗い方法を周知する。

① 「手指衛生の日」に関連付け、eラーニング等にて手指衛生の必要性周知機会をつくる。

② 看護師以外の職種の業務において,どの瞬間が5つのタイミングに当てはまるのか職種ごとの具体例を示したポスターを作成する。

③ 「手指衛生の5つのタイミング」について全職員向けの動画を作成する。

2）WHO多角的戦略

（1）自己評価フレームワーク

WHO多角的戦略の深化と定着を目指し、手指衛生の「量」だけではなく「質」を重視する。

（2）手指衛生ロールモデル選挙

管理部門の関与により,「手指衛生は組織の優先事項」であることを意識付けができた。次年度は手指衛生を「全職種の習慣化」へ繋げるため,ロールモデルの対象を全職種へと拡大を検討し、ロールモデルを活用した現場支援と組織力強化を図る。